

# うき消防の動き

11

2008(平成20)年

No.243

(書内報)

編集・発行 宇城広域消防本部総務課  
〒869-0419 熊本県宇土市新松原町 159-1  
TEL 0964(22)0554 FAX 0964(22)0270  
Mail honbu@ukisyobo.or.jp  
URL http://ukisyobo.or.jp



新型インフルエンザ対応訓練

10月22日(日) 宇賀岳病院

防入



熊本市消防団  
団長 米村 昌昭

## 常備消防と消防団の更なる連携について

10月6日熊本市と富合町が合併し、新熊本市が誕生しました。合併に伴い熊本市消防団は、251名の旧富合町消防団を迎え、12方面隊75個分団として組織を整えたところです。地域防災の要である消防団は、災害発生時の即戦力として重要な組織であると同時に、平時の活動も地域に密着したものであり、地域住民からも厚い信頼を受けているところです。しかしながら、団員数の減少は年々深刻化しており国においても団員確保のための施策を講じているところでもあります。本市におきましては、3,781名の定員に対し実員3,528名となっており、わずかながら減少傾向にあります。団員確保の対策として女性消防団員の入団促進を図るなど、

地域防災力の向上に鋭意努めているところでございます。最近の災害を振り返りますと、岩手県内陸南部地震や愛知県での集中豪雨など、大規模化且つ頻発化の様態を呈し、防災関係機関相互の連携がますます重要となっております。そのため熊本市総合防災訓練をはじめ、常備と連携した火災防ぎよ訓練等を定期的に行うとともに、技術の向上に努めているところであります。旧富合町消防団は、熊本市消防団第75分団として組織を改めましたが、地域防災に対する団員の士気は旺盛であり、これまで以上に宇城広域消防本部と連携を深め地域防災力の向上に邁進する所存でありますので、今後とも一層のご支援ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

## 消防協力者表彰

平成20年9月6日、宇城市小川町で発生した倉庫火災で、いち早く現場へ駆けつけ、全員で協力し、消火活動力噴霧器を使用し消火活動を行ったことにより、隣接する母屋への延焼被害を最小限に食い止めたものです。

■表彰を受けられた方  
(いずれも宇城市)

藤田 一義さん  
長谷 誠一さん  
寺川 邦雄さん  
寺川 邦親さん  
國瀧 康政さん  
丸田 博雄さん



写真は左から、丸田 博雄さん、長谷 誠一さん、藤田 一義さん、寺川 邦雄さん

## 和太鼓セット寄託式

日本防火協会の宝くじ助成事業により、宇城市三角町「わかき保育園幼年消防クラブ」に和太鼓セットが寄託され、10月29日に寄託式を開催した。式では中島会長から園児代表に目録が渡され、来賓の山本正治宇城市消防団長から、「小さい頃から防火に対する正しい知識を身につけるということは、人の命の尊さを理解するとともに、人に優しくするという心を育む、いわば「命と心の教育」そのものであると思う。」と祝辞を述べられ、寄託を受けた鈴木喜一園長は、「思いがけなく素晴らしい和太鼓セットを頂いた。これからも演技を通じて、積極的に防火についての啓発を行ってきたい。」と謝辞を述べられた。その後、少年消防クラブ員21名により寄託された和太鼓セットを使っての演技が披露された。



元気いっぱい演技を披露するわかき保育園幼年消防クラブ員

## 新型インフルエンザ 対応訓練を実施

10月22日(金)、世界的な流行が危惧されている新型インフルエンザの発症が確認された場合に備え、医療機関と行政機関等の連携対応訓練が実施された。想定は、成田空港検疫所からA型でH5N1陽性患者が搭乗していた同機のすべてが搭乗者名簿が関係自治体に送付され、10日間の健康モニターを実施するよう熊本県健康危機管理課を通じて県下各保健所に通知された。宇城保健所でも送付された名簿をもとに管内該当者に新型インフルエンザの概要と同乗していた患者の状況等を連絡するとともに、発症した場合は、直ちに連絡するよう指示した。また、感染を想定し、家族への感染拡大防止のため、市販のマスクを10日間常時装着し、家族との同室をできるだけ避けることを指示した。外出時もマスクの着用と咳・発熱等が生じた場合には、可能な限り出勤を自粛するよう依頼してい



1次処置を終え、救急車に収容

たところ、10日ほど経過して、該当者の一人から発症を訴える連絡があったというもの。今回の訓練には、宇賀岳病院、国立病院機構熊本南病院、済生会みすみ病院、宇城市市民病院、宇城広域消防本部、管内市町、宇城保健所等が参加し、発症を覚知後から患者増時の発熱外来、入院、施設の確保及び院内感染防止を想定した医療確認などのため、パワーポイントを使用した机上訓練と実際の患者移送訓練が行われた。

## 九州地区 消防職員親善剣道大会



熱戦の様子

10月11日(土)、福岡市九電記念体育館で九州地区消防職員親善剣道大会が開催された。これは、九州地区消防職員剣道連盟の主催によるもので、消防長会で開催していた頃から通算すると40回目。今回は、個人20人、団体37チームが参加し熱戦を繰り広げた。当本部からは、個人の部に吉川秀樹副士長、藤本圭吾副士長、福永智美消防士の3名が出場し、そのうち藤本副士長は3回戦で準優勝した清水選手(直方・鞍手広域市町村圏消防本部)に敗退したが、もし清水選手に勝っていたら藤本選手が優勝していたかもしれない。(がもしれない。)団体の部は一回戦で県央地域広域消防本部(長崎県)と対戦し惜しくも敗退したが、来年の検討を期待したい。なお、個人の部優勝は、筑紫野太宰府消防本部の大脇選手、団体の部は、優勝は八女消防本部A(福岡県)、準優勝が天草広域連合消防本部だった。

# 第27回熊本県救急教育セミナー

10月28日（火）、宇城市松橋町、

松橋総合体育文化センター「ウ

イング松橋」において第27回熊

本県救急教育セミナーが開催さ

れた。これは救急隊員の教育訓

練の充実強化のため、平成15年

度から熊本県下消防本部の持ち

回りで年6回開催されており、

宇城地域での開催は今回が3回

目。今回の主なテーマは、「脳

梗塞について」で、第1部の症

例検討会では、北消消防署消防1

課救急係の本田公司救命士が

「脳梗塞症例の搬送事案につい

て」というテーマで発表し、宇

城管内における4つの症例の概

要と観察状況を説明した。

また、熊本県における「脳疾患」

で脳梗塞が占める割合が40%

近くあること、脳梗塞の発生割

合には地域差があり、宇城地域

は比較的高い割合であることか

ら、脳疾患と思われる症例では、

「t・PA」による治療ができ

る医療機関の選定も考慮する必

要性もあり、今後、救急隊員に

よる脳卒中の観察・処置の標準

化プログラムである「PSLS

コース」の普及及び「t・PA

による治療方針など、脳卒中に

ついての病態・症状などの理解

を深めることにより、より円滑

で適正な観察及び処置、搬送先

医療機関の選定が可能であり、

搬送方法としては、ゴールデン

タイム（3時間）以内を目標に、

防災ヘリでの搬送も考慮する必

要があると訴えた。

これに対し、アドバイザーの木

下順弘熊本県MC協議会長（熊

本大学医学部付属病院教授（救

急部・集中治療部長）から、「脳

梗塞では、最初から脳ヘルニア

は併発しないので瞳孔所見とし

ては共同偏視はt・PA適応の

可能性が高い。糖尿病がらみの

意する必要がある。などのアド

バイスがあった。

まとめとして、前原部長から、

「PSLSコース」については、

救急隊員の全体的なレベルを底

上げする短時間の簡易コースで

救急隊員全員が受講できるように

することも今後考えていくこ

とが必要ではないか。現在、様々

なコースがあるが、コースを受

けることが目的ではなく、医療

機関と救急隊が共通認識を持つ

ことにより、患者さんにメリッ

トがあることが大事なこと。で

きるだけ受講しやすい熊本の地

域性に合ったコースを設定して

いきたいので積極的に参加をお

願いしたい。」と今後の方向性

が示された。

第2部では、「脳梗塞急性期治

療の実際と基幹病院搬送のポイ

ント」と題して米原部長の講演

があり、「ペナンブラは、血流

量が低下している領域にあって

細胞死を免れている部分のこと

を言い、速やかな血管再開通に

より梗塞への移行を阻止できる

と期待される部位だが、治療が

遅ければ梗塞巣（不可逆的）と

なるため、発症3時間以内と言

われているが、なるべく早い

方が良い。」との冒頭説明があ

り、その治療法やt・PA適応

のチェック項目、t・PA適応

可能性症例搬送時のポイントな



発表する本田公司救命士

## 南消防署消防2課救助係 参事 満潮 直範



私は今回、神奈川県横須賀市にある独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）において、10月6日から10日間の潜水技術研修を受講してきました。

この研修には全国19の消防機関から23名が研修生として参加しましたが、この内4消防本部からは各2名ずつ参加しており、全国の消防本部が潜水隊の技術向上のためにJAMSTECへ積極的に職員を派遣しているという現状を知ることができました。

この研修が始まったのは二十数年前ということで当初は警察の潜水隊がメインで受講していたそうですが、ここ数年前から消防機関からの申し込みが殺到してきているそうです。

また、今回研修に参加した消防本部の半数以上が我々の消防本部と同じ時期に潜水隊を新たに発足させており、全国的に消防の潜水隊が必要とされていることを強く感じました。



今回の研修で一番辛かったのは、水深3mのプールで空気をボンベ無しで行われた訓練でしたが、他の研修生の必死な姿を目の当たりにして自分だけが苦しんでいるわけではないと知り大変皆から熱いものを感じ元気づけられました。我々の潜水作業は常に特殊な環境下で行わなければならない為、不安になりがちでパニックに陥り易く、この不安を少しでも軽くするために自分自身に負荷をかけた反復訓練を行うしかないと思いました。

最後に、この技術研修を受講させていただき誠にありがとうございました。今後も全国の消防本部同様に継続してJAMSTEC（10日間コース）への職員の派遣を宜しくお願います。

## JAMSTEC 潜水技術研修を終えて

# 第2回人権研修

平成20年度第2回目の人権研修が10月16日、17日の両日、南消防署で開催された。



今回は、熊本県人権教育研究協議会会長の「上原仁朗」氏を講師として、「部落問題と人権」と題して講演をいただいた。上原氏は、「人権は、イギリスの名誉革命、フランスのフランス革命、アメリカの独立宣言など、今日につながる近代社会が生み出したものである。日本では「自由」と「人権」を混同しがちだが、英訳すれば「自由＝freedom」、「人権＝human rights」と別の意味である。「Human」は「人間」、「right」は「正しい・正当な」という意味なので、「人間として正しいこと。」が人権ではないか。」と話され、平成16年3月に策定された「熊本県人権啓発教育基本計画」に示された「女性の権利」、「子どもの人権」、「高齢者の権利」、「障害者の権利」、「同一問題」、さらに「外国人、アイヌの人々、水俣病、ハンセン病、HIV感染症、難病等、インターネット、犯罪被害者、刑を終えて出所した人、ホームレス、性同一性障害、性的指向、拉致問題」など、様々な人権問題の歴史と現状について話された。また、サイレンや防災無線が聞こえない方のために、自宅に赤色回転灯を設置して異常を知らせるシステムを開発した消防職員を例に挙げ、「公私を問わず人権に対する視点を持って頂きたい。」と話された。

災害統計			
	火災	救急	救助
H20. 10.31 現在	39	5,037	88
昨年 同期	39	5,251	60
増減数	±0	-214	+28

11月の予定			
日	曜	行事	場所
1	土	第12回熊本外傷セミナー	県消防学校
7	金	全国消防長会九州支部秋季役員会	熊本市
8	土	熊本県消防駅伝大会	熊本県総合運動公園
9	日	秋季全国火災予防運動	
9	日	防火ポスター・防火標語表彰式	宇城広域消防本部
12	水	守口市門真市消防組合視察研修	南消防署
14	金	全国消防長会九州支部消防長研修会	長崎市
19	水	宇城広域連合消防職員採用第2次試験	宇城広域消防本部
21	金	所属長会議	
21	金	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練	佐世保市
21	金	熊本県消防長会予防研修会	熊本市消防局
24	月	壱岐市消防団視察研修	南消防署

12月の予定			
日	曜	行事	場所
1	月	熊本県消防学校初級幹部科	熊本県消防学校
2	火	叙勲知事伝達式	熊本県庁
3	水	歳末防火指導	管内防火対象物
5	金	歳末防火指導	管内防火対象物
7	日	人権フェスタ in うきし	不知火公民館
8	月	歳末防火指導	管内防火対象物
10	水	歳末防火指導	管内防火対象物
12	金	宇城広域消防連絡協議会	宇城地域振興局
14	日	人権フェスタ in うきし	ウイングまつばせ
19	金	所属長会議	宇城広域消防本部
21	日	人権フェスタ in うきし	豊野公民館
26	金	仕事納め式	宇城広域消防本部

**お誕生 おめでとうございます**

豊野分署  
吉川秀樹副士長

玲(れい)くん  
10月18日生れ

**思い愛(あい)**

**「人権を守ろう」**

人権が尊重される豊かな社会は、だれもが個性や能力を発揮し、生き生きと輝いた生活、「だれもが幸せに暮らすことができる社会」「だれもが生まれてきて良かったと思える社会」と思います。人権が尊重される豊かな社会をつくるためには、「他の人がどうなろうと、自分には関係ない」など言わないで、私たち一人ひとりが、「人間は、いかなる場合にも人間として尊重されなければならない、不当な差別をするべきでない」という意識を高め、日々の生活の中で、できること、身近なこと、小さなことから、実践し積み重ねていくことが大切だと思います。また、生まれたばかりの子どもは差別意識や偏見を持っていません。子どもたちに人権の大切さを語り伝えていく義務があるのではないのでしょうか。「まずはみずから」です。

トおまけに持参した小説にサインを頂き今年最高の自分へのプレゼントと一生涯の宝物ができました。

久しぶりに土日が空いたので、鹿児島県の指宿まで一泊二日の旅に出ました。急ぎよめた旅なので宿の確保に一苦労。インターネットで何とか宿を確保し、爽やかな秋空のもといざ出発。私が目指す薩摩焼のふるさと美山の沈壽官窯まで2時間と少し。10年前に訪れた時には鹿児島インターから細い県道を一時間弱トコトコ走りましたが、今は南九州自動車道のお陰で約10分で目的地に到着。沈壽官窯を訪れるに当たり、私は一冊の本を懐に入れて行きました。12年前に買った求めた司馬遼太郎の小説「故郷志しがたく候」です。これは先日NHKの「家族に乾杯」に出演されていた第14代沈壽官の半生と、約400年前、当時の薩摩藩主島津義弘公が朝鮮に出陣し連れ帰った陶工のうち鹿児島島の串木野に着船した40余名が薩摩焼を開いた歴史を描いた小説で、司馬遼太郎は32年前、美山を訪れ、第14代沈壽官の話聞きながらこの小説を書きました。壽官さんは普段、全国を忙しく飛び回り、なかなかお目にかかれない方だけに、会えたら幸い、会えなければ小説片手に付近を散策しようと思いつきながら車を降りました。登り窯まで歩いたら、庭先で訪れた方と気さくに記念撮影に応じる壽官さんの姿を発見。どこまでも優しい壽官さんに甘え、ちゃっかり私も記念撮影。おまけに持参した小説にサインを頂き今年最高の自分へのプレゼントと一生涯の宝物ができました。

**百時足消防**

(ひやくじくしんぼうしょうぼう)

全てのことは消防に繋がる